

音楽とセルロイド（ドラム）

今回は、ギターにつきもののピックのことでした。ギター演奏が盛り上がるのは、やはりバックにドラムのバンドがいるから、ではないでしょうか。

昨年（平成 14 年）秋にタイトルが、「丸ごとドラムの本（著者・市川宇一郎）」という本が出ました。ドラムのことを、大変わかりやすく纏めた本です。この本の「おわり」に「本書の作成にあたってお茶の水の下倉楽器の青柳哲夫さんには、古い貴重なカタログをお借りした」とあります。

下倉楽器の大宮店には、20 年前から立ち寄っています。先日、セルロイドハウス横浜館のセルロイド・ドラムの修理について、下倉楽器お茶の水店の青柳哲夫さんに相談したところ、「カノウプス」楽器店を紹介されました。

そのとき青柳さんから、映画「ALWAYS 三丁目の夕日・64」＝後編に關した次のようなお話を伺いました。

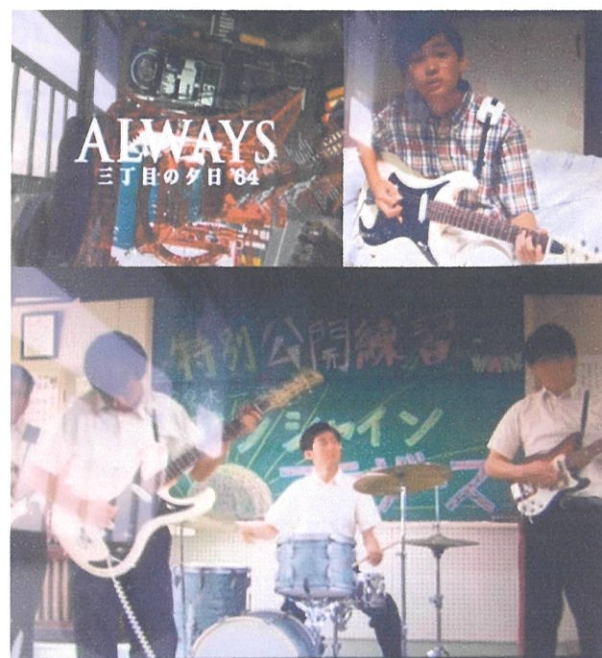
平成 13 年公開の映画「ALWAYS・64（後編）」は、昭和 39 年東京オリンピックが主題。前編の昭和 33 年から 6 年経過した 3 丁目の人々の生活を描いた。前編の時には、まだ小学生だった鈴木オートの一人息子も高校卒業を迎える。

彼が卒業記念に鈴木オートの 2 階で同級生とライブを行う一幕がスクリーンに映しだされた。

この映画の製作は平成 12 年 10 月。エレキギターとドラム一式がカノウプス（株）から映画会社に貸し出された。新品だった。それが 50 年前の昭和 39 年を想定した時代の映画に使われたわけ。

古いギターやドラムは、探せば古道具屋にある。映画会社も案外ルーズなものだね。

と、青柳さんが嘆いておられました。





カノウプス（株）さんは、東京のドラムメーカーですが東京杉並区高井戸 2 丁目で店頭販売と貸出を行っています。

この店に展示してあった商品のドラム(写真左)が目にとまりました。



グレッシュ社のドラムです。右写真の横浜館展示の楽器（フロアタムのシェル）の色彩が似ていました。しかし両品には製造年月に50年以上の差があります。そして、左の材質はプラスチック、右はセルロイドの違いもあります。

セルロイドハウス横浜館に A, B, C の3種類のドラムセットが展示してあります。



上の写真は、ドラムセットの中心であるスネアドラムのシェル部を拡大しました。AとBの製作は70年前と思われます。古いドラムですが、セルロイドのシェルが横浜館内で今も光沢を放っています。光って見えるのは、セルロイド生地の前工程でガラスを混入したから、とセルロイドメーカーのダイセ

ル（株）に勤務された方から聞きました。A及びBは昔、大日本セルロイドの社内音楽クラブで使用されていた楽器です。セルロイドハウス横浜館の開設に当り、ギターとともに一式ダイセル株式会社から寄贈されました。このAとBの商品名が **VALENCIA** **MADO** **IN** **JAPAN** となっています。どうしたことでしょう？

バレンシア市は、地中海に面し現在人口 80 万人、スペイン第3の都市です。バレンシア・サッカークラブは、何度も優勝した名門です。青く光る地中海とサッカーの知名度からして「バレンシア」の名が美しく響きます。



タムタム、バスドラム、フロアタムのシェル（セルロイドで巻かれた部分）が、さざ波のようです。セルロイド製造工程で、仕掛り品を斜めに切断すると、このような生地になります。（ダイセルセル関係者の言）アメリカ・ラディック社に採用されました。



C

ラディック社のタムホルダー



ドラマーが、スティックで叩くヘッドの表と裏のフィルムに REMO のマークがあります。裏ヘッドは、表ヘッドより薄いフィルムです。このフィルムは 1970 年代半ばに、リモ社から発売されラディックに採用されました。



左写真の 2 基のタムタムが、鉄棒（タムホルダー）に支えられてバスドラムの上に乗っています。鉄のホルダー上とシェルにラディックの名があります。



ラディック社はドラムを含めた総合打楽器のメーカーです。日本の音楽大学の入試テキストに指定されている曲集「オール・アメリカン・ドラマー」(1945) は、ラディック出版のロングセラーです。ラディックは、ドラマーのビートルズのリンゴ・スターやジャズ界など多くのドラマーに愛用されています。

C 項目の展示品一式は、ピアノ教習所々長・岩井要詩子様よりセルロイドハウス横浜館の開設時に提供されました。 H27・11・4